

令和5年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生第三小学校 第4学年1組 担任 ○○ ○○

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	93.3%	93.9%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	90.0%	80.3%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	96.7%	91.9%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	70.0%	66.7%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	83.3%	89.5%
	他者との協働	104 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、からかったりしていない。	93.1%	85.1%
	学力と関係が深い質問	35 自分で学習の計画を立てている。	53.3%	58.3%
		46 パソコンを使ってまとめたり発表したりできる。	83.3%	72.7%
3 本や新聞を読んでいる。		63.3%	64.0%	
領域名 学力調査の分析 ○成果 ▲課題				
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を6.3ポイント下回り、(正しいローマ字の表記を選ぶ) 設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率をポイント3.0下回り、(発表に対する質問の意図を選ぶ) 設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を13.8ポイント下回り、(作文の下書きに見られる工夫を選ぶ) 設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を16.3ポイント下回り、(内容をまとめた表の空欄に入る言葉を書く) 設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を15.3ポイント下回り、(1000-3位数の減法の計算) に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を18.2ポイント下回り、(角の大きさを大きい順に並べる) 設問に課題がある。		
	測定	▲全国平均正答率を10.3ポイント下回り、(はかりの針が指している重さを読み取る) 設問に課題がある。		
	データの活用	○全国平均正答率と同じポイントであり、(票の合計を表す位置を選ぶ) 設問に成果がある。		
2 児童の実態		3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組		
<p>国語の学習に関しては、すべての項目で全国平均正答率を下回り、多くの課題が見られる。特に、『聞き取り』や『文章を書く』設問で、全国平均を大きく下回った。意識調査では、『文章の書き方の良い例を参考にして書くことがある。』が全国平均よりも低く、それが原因であると考えられる。</p> <p>算数の学習に関しては、ほぼすべての項目で全国平均正答率を下回り、課題が見られる。特に記述式的应用問題が全国平均を大きく下回った。意識調査では、『文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある』が全国平均よりも低く、それが原因であると考えられる。</p>		<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> 音読の機会を増やしたり、意味調べをさせたりして、教科書の内容を正確に理解できるようにする。 朝の読書活動、宿題での読書活動をこれまで以上に活発にし、本を読むことの楽しさや読み取る力を身に付けることの必要性を実感させる。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> 文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明させる時間を多くする。 友達と対話的に解決する課題解決学習の時間を増やし、基礎力と応用力を高める。 基礎的な四則計算を、ミライシードやドリルを使って繰り返し練習させ基礎基本の力を定着させる。 		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童	67% (21人/31人中)	
確認テストの実施状況		令和5年8月末時点で完了している児童	80% (25人/31人中)	